

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（例）

【学 年】 小学校第4学年

【単元名】 八重原台地に水を流す（9時間扱い）

【育成する資質・能力】

| 〔知識及び技能〕 | 〔思考力, 判断力, 表現力等〕 |
|------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 八重原台地で米作りができるのは、黒澤嘉兵衛が蓼科山から水を引き、周りの土地よりも高い大地に水を通すことができ、その用水を守り続けてきているからであることを理解する。 | どのようにして蓼科山から水を引き、八重原用水をつくったのかを、当時の八重原の様子、当時の人々の願い、嘉兵衛の工夫や努力などを関連付けながら考え、表現する。 |

【主な学習活動と留意点】

前単元からのつながり：「安全安心なくらし」 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し様々な協力をして対処してきたことや今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

働かせる見方・考え方：当時の世の中の課題や人々の願い、保存や継承の取組などに着目して、嘉兵衛の功績について考えること。

| 段階 | □学習問題（時間） | 留意点 |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 課題把握 | 1 八重原台地に流れる水はどこから来るのだろう。（2） | <p>気付きや疑問から「問い」を設定する場面</p> <p>☞学校周辺の水田につながる用水を実際に見学する場を設ける。</p> |
| | 単元を貫く問い：八重原用水はだれがどのようにしてつくったのだろう。 | |
| 課題追究 | 2 予想を基に、黒澤嘉兵衛が中心となり、蓼科山から水を引いたルートや使った道具や工夫の仕方について調べる等の学習計画を立てる。（1） | <p>予想から解決の見通しをもつ場面</p> <p>☞実際の用水の見学、様々な困難を克服していった事実を知る調査活動、用水を守る人々の活動に焦点化していく。</p> |
| | 3 蓼科山から流れてくる水は、今のどこを通過して八重原まで来ているのだろう。（1） | <p>予想や仮説の検証に向けて調べる場面 1</p> <p>☞蓼科山からの55キロの道のりを、資料と白地図で確認する。</p> |
| | 4 嘉兵衛は、55キロの道のりをどうやって水が通る道を作ったのだろう。（3） | <p>予想や仮説の検証に向けて調べる場面 2</p> <p>☞使った道具、地形の克服など工夫したことを調べ、まとめる。</p> |
| | 5 どのようにして、今の八重原用水を守っているのだろう。（1） | <p>予想や仮説の検証に向けて調べる場面 3</p> <p>☞八重原土地改良区の方の話聞き、「用水を守る」思いを取り上げる。</p> |
| 課題解決（まとめる） | 6 八重原用水はだれがどのようにしてつくったのだろう。（1） | <p>学習を振り返る場面</p> <p>☞単元を貫く学習問題に対する答えをまとめる。</p> <p>☞単元を通じた学習の振り返りを行い、八重原用水を守り続ける土地改良区の方へお手紙を書く。</p> |
| | <p>【ねらいを達成した子どもの姿】</p> <p>黒澤嘉兵衛は蓼科山から水を引き、土手を作ったり、隧道を掘ったり、努力と工夫を重ね、わずか1年で55キロもの道のりを用水にすることができた。その用水は今も土地改良区の方々により、守られている。</p> | |

次単元へのつながり：「位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係」などに着目して、県内の特色ある地域での、人々が協力するまちづくりや産業の発展など追究していく。